

ディズニー映画『ふしぎの国のアリス』

ビデオソフトの吹き替え

Japanese Translations of Audio-dubbings in

Walt Disney's *Alice in Wonderland*

木下信一 Shinichi KINOSHITA

Summary

Variation in Japanese translations of audio-dubbings in Walt Disney's *Alice in Wonderland* was examined. To examine the variation, 12 authorised video programmes released between 1984 and 2005 were compared. The translations in video programmes were classified into three types: Type A (1984-1987), Type B (1990-2004) and Type C (2005). Type B was revised from Type A so that the styles of the songs (solo, chorus, etc) were consistent with original songs. On the other hand, Type C had many changes compared to Type B. The changes were classified into 6 categories: 1) correction of dialogues into lyrics to be consistent with original songs, 2) corrections of mistranslation, 3) changes in need of the visual presentation, 4) to avoid the word “kill”, 5) to avoid “politically incorrect” words, and 6) other changes probably for the convenience of the recording. These results show the bibliographical characters in these video programmes.

はじめに

日本における『アリス』受容において、ディズニー映画『ふしぎの国のアリス』の影響は大きい。筆者は以前、この映画が日本で公開され、日本で影響を及ぼした経緯について報告した¹。その際、ビデオソフトのリリースについても報告したが、複数のリリースにおいて、音声吹き替えに違いがないとの認識であった。

インターネット掲示板やソーシャル・ネットワーク・サービス mixi 等での書き込みを読むと、2005年にリリースされたDVD『ふしぎの国のアリス スペシャル・エディション』の日本語吹き替えに違和感を覚える書き込みが散見される。多くは子供時代にVHS等で見た日本語版吹き替えとこのDVDの吹き替えの日本語が違うというのだ。事実、Amazon.co.jpのカスタマーレビューでは、以下の声が掲載されている²。

やっぱりアリスは本当に最高!!!しかし☆3つの理由はどうしても昔から慣れ親しんでいる吹き替えが印象強くやっぱり馴染めないんです!大好きなんですけど、何故吹

き替えかえてしまったんだーって言いたいですー (´ー`) ー

……セリフや歌詞・キャラクター名（イカレ帽子屋→マッドハッター）・一部声優さん（女王）が…15年ぐらい前に購入した、慣れ親しんだものと変わってしまいましたⁱ…。

違和感があってショックで、画質の落ちた VHS を引っ張り出して見てしまいました。

昔からアリスが大好きで、テレビで放送されたものを録画した VHS に、かれこれ 10 年以上お世話になっていました。ここでタイミングよく DVD 発売ということで購入してみました。ところが、ところどころでセリフや歌詞が変わってるじゃないですか（涙）確かに「イカレ帽子屋」や、ドードーの歌の「いぶしてやれ〜」のあたりはカゲキな言葉だと思えますが……。しょうがないので古いものを VHS でもいいから探すぞ〜。ということで鼻屑目に見て星 2 つ。多少変更があっても、かわいかったから

問題となる 2005 年リリースの『ふしぎの国のアリス スペシャル・エディション』には、パッケージの裏面に「日本語吹き替えの一部を、現在の日本語表現に合うよう、新しく収録しています」との記載がある。明らかに吹き替えが修正されているが、具体的にどの程度の修正がなされたかは明らかではない。Wikipedia の『ふしぎの国のアリス』の項では、吹き替えの変更について記述があるが、主要な変更点の指摘に留まっている（2010 年 6 月 28 日現在）³。

本稿では、過去にリリースされた『ふしぎの国のアリス』のビデオソフトを比較検討することにより、2005 年版 DVD の吹き替えが、過去のビデオソフトの吹き替えからどの程度修正されているかを同定することを目的とする。また、2005 年 DVD 以前にも吹き替えに修正のあった場合は、修正部分の同定とその修正時期も併せて確定する。

資料および方法

現在までにディズニーの正規版としてリリースされた『ふしぎの国のアリス』のビデオソフトの一覧を表 1 に示す。今回の調査では、VHS テープ、レーザーディスク (LD) および DVD のうち、2005 年のスペシャル・エディションまでの吹き替えの変遷を確認する必要から、記号 a)~k) の映像を資料として使用した。

吹き替えの比較の、具体的な調査方法は以下の通りである。

1. 日本語吹き替えについて、資料 a と l とを比較する。
2. 資料 a と l の間で相違のある部分について、資料 l（吹き替え変更の断り書きのあるスペシャル・エディション）の直前の版である資料 k の吹き替え内容を確認する。

ⁱ 実際には Queen of Hearts の声優は 1984 年版から変更はない。

表 1. ビデオ化された『ふしぎの国のアリス』

	形態 (リリース会社)	リリース年**
a)	VHS (ポニー)	1984/10/5**
b)	LD (パイオニア LDC)	1985/2/21
c)	VHS (バンダイ)	1987/9/28**
d)	LD (バンダイ)	1987/12/5****
e)	VHS (ブエナ ビスタ)	1990/03/15 (二ヶ国語版) *
f)	VHS (ブエナ ビスタ)	1991/03/15 (吹き替え版) *
g)	LD (パイオニア LDC)	1991/3/25 (二ヶ国語版) ***
h)	テレビ放映(NHK)	1992/12/27**
	VHS (ブエナ ビスタ)	1995/5/19 (二ヶ国語版) *
	VHS (ブエナ ビスタ)	1995/5/19 (吹き替え版) *
	VHS (ブエナ ビスタ)	1995/5/19 (字幕版) *
	LD (パイオニア LDC)	1995/5/19 (二ヶ国語版) ***
	LD (パイオニア LDC)	1995/5/19 (字幕版) ***
	VHS (ブエナ ビスタ)	1998/3/20 (二ヶ国語版) *
	VHS (ブエナ ビスタ)	1998/3/20 (吹き替え版) *
	VHS (ブエナ ビスタ)	1998/3/20 (字幕版) *
i)	DVD (パイオニア LDC)	1998/11/25*
	VHS (ブエナ ビスタ)	2000/12/6 (二ヶ国語版) *
	VHS (ブエナ ビスタ)	2000/12/6 (吹き替え版) *
	VHS (ブエナ ビスタ)	2000/12/6 (字幕版) *
	VHS (ブエナ ビスタ)	2001/10/17 (二ヶ国語版) *
	VHS (ブエナ ビスタ)	2001/10/17 (吹き替え版) *
	VHS (ブエナ ビスタ)	2001/10/17 (字幕版) *
j)	DVD (ブエナ ビスタ)	2002/8/21*
k)	DVD (ブエナ ビスタ)	2004/7/9*
	VHS (ブエナ ビスタ)	2005/9/7 (吹き替え版) *
l)	DVD (ブエナ ビスタ)	2005/9/7*
	DVD (ウォルト・ディズニー・スタジオ)	2010/5/21*

※βビデオテープによるリリースは調査できなかった。今後の調査に待ちたい。

*Amazon.co.jp の書誌データより

**木下信一「日本で公開されたディズニー映画『ふしぎの国のアリス』」 *Mischmasch* 9, 101-124, 2007

***ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメントジャパン (旧パイオニア LDC) への問い合わせ結果

****LaserDisc Database <http://www.lddb.com/>より

- 資料 k の吹き替え内容が資料 a と一致した場合には、その部分に関し、調査は終了する。
- 資料 k の吹き替え内容が資料 a と一致しない場合、最初に DVD 化された映像ソフトである資料 i の吹き替え内容を確認する。資料 j と k は基本的に同じものである (資料 j の再発売版が資料 k) と考えられるので、資料 j の検討は、資料 i と k の吹き替え内容が一致しない場合にのみ行う。
- 資料 i の吹き替え内容が資料 a と一致した場合には、その部分に関し、調査は終了する。
- 資料 i の吹き替え内容が資料 a と一致しない場合、資料 b~h の吹き替え内容を確認する。

結果

吹き替えを比較し、資料 a と l の間で相違の認められた科白について以下に示す。

異同については藤田 (2007) 4による章立てに従い、各章番号と其中での通し番号で特定することとする。表記は「○-△」(第3章の通し番号1の相違の場合、「3-1」とした。英文の後ろのページ数は、藤田による原文のページ番号を指す。

なお、登場人物の名前においても、吹き替え間で相違の認められるものがあることから、本稿では登場人物名については英語版の表記を採用する。原語での科白についても、上記藤田に従う。

3-1 White Rabbit

英文：(口笛のみで科白なし) (p.24)

資料 a：よいっしょ、よい。

資料 1：(口笛のみで科白なし)

3-2 Alice

英文：Oh Dinah! It's just a rabbit with a waistcoat.... and a watch! (p.24)

資料 a：ダイナ、何が変なの？ うさぎがチョッキを着てるだけ。あー！ 時計も持ってる！

資料 1：何が変なの？ うさぎがチョッキを着てるだけ。あー！ 時計も持ってる！

3-3 White Rabbit

英文：Oh, my fur and whiskers! I'm late, I'm late, I'm late! (p.24)

資料 a：おっと大変だぞ急がなきゃ遅れちゃう。

資料 1：あー急がないと遅れるぞ。大変大変大変。

3-4 White Rabbit

英文：I'm late, I'm late for a very important date! No time to say "Hello." Goodbye! I'm late, I'm late, I'm late! (p.24)

資料 a：だめよ、急いでんの、遅刻すれすれ。話してる間はないのよ、バイバイ、さよなら、またカムバック。

資料 1：大変、大変、遅刻しそうだ。こんちはどうもさよならって、言う暇ない。

3-5 White Rabbit

英文：No, no, no, no, no, no, no, I'm overdue. I'm really in a stew. No time to say "Goodbye." Hello! I'm late, I'm late, I'm late! (p.24)

資料 a：ほんとにどうすりゃいいのか困っちゃってんよね。すっかり遅れちゃってどうしましょ、ってなわけでバイバイ、さよなら、またね。

資料 1：だめだめだめだめだめだめ、もう間に合わない！ ああどうすりゃいいんだろう。今はさよならこんちはどうも、って言う暇ない。

5-1 Dodo 他

英文 : (Chorus) Forward, backward, inward, outward

Come and join the chase!

Nothing could be drier than a jolly Caucus-race

Backward, forward, outward, inward, bottom to the top

Never a beginning, there can never be a stop

(Dodo) To skipping hopping, tripping, fancy-free and gay

I started it tomorrow and will finish yesterday

(Chorus) Round and round and round we go until forevermore

Once we were behind but now we find we are be-

(Dodo) Forward, backward, inward, outward

Come and join the chase!

Nothing could be drier than a jolly Caucus-race (p.34)

資料 a : (Dodo)前だ後ろだ中だ外だ、みんな追っかけろ。ぐるぐる回って身体を乾かそう。後ろが前で外が中、下が上さ。回れば頭も尻尾もないぜ。

晴れたり曇ったりピンポンポンポン陽気で愉快だぞーい。始めは明日で終わりは昨日。

ぐるぐる回るどンドン回るいつまでも。始めと終わりがぴったんこだ。

前だ後ろだ中だ外だ、みんな追っかけろーい。ぐるぐる回って身体を乾かそう。

資料 l : (Chorus)前だ後ろだ中だ外だ、みんな追っかけろ。ぐるぐる回って身体を乾かそう。後ろが前で外が中、下が上さ。回れば頭も尻尾もないさ。

(Dodo)晴れたり曇ったりピンポンポンポン陽気で愉快だぞ、ほっほ。始めは明日で終わりは昨日。

(Chorus)ぐるぐる回るどンドン回るいつまでも。始めと終わりがぴったんこだ。

(Dodo)前だ後ろだ中だ外だ、みんな追っかけろ。ぐるぐる回って身体を乾かそう。

6-1 Tweedledee

英文 : 'The Walrus and the Carpenter'! (p.39)

資料 a : セイウチと大工の話

資料 l : セイウチと大工さんの話

7-1 Carpenter, Tweedledum and Tweedledee

英文 : "Mister Walrus," said the Carpenter: (p.40)

資料 a : (Carpenter)「ようセイウチ」(Tweedledum and Tweedledee)大工は言った。

資料 l : (Carpenter)「ようセイウチ」(Tweedledum and Tweedledee)大工さんは言った。

8-1 Tweedledum and Tweedledee

英文 : "You are old, father William," the young man said,
"And your hair has become very white:
And yet you incessantly stand on your head –
Do you think, at your age, it is right, is right?
Do you think, at your age, it is right?"
"Well, in me youth," father William replied to his son,
"I'd do it again and again and again
And I'd do it again and again and again..." (p.46)

資料 a : (Chorus)名高いウィリアム親父は白髪のお爺さん。やせ我慢しては逆立ちして
る、年も構わずに。そりゃまた年を考えろ。

「いや」、胸を反らしウィリアムは答えた。「馬鹿にするなよ、平気さ、見ろよ見
ろよ見ろよ見ろよ見ろよ」

資料 l : (Tweedledum)ウィリアム親父といえば白髪のお爺さん。それがやめりゃいい
のに逆立ちなんかしてさ、危ないったらありゃしない。
(Tweedledee)でも、ウィリアム親父はこう言うんだ。「わしゃ伊達の年寄りじゃ
ないよないよないよないよないよ」

9-1 Dodo

英文 : Oh we'll smoke the blighter out
We'll put the beast to rout
Some kindling, a stick or two
Ah, this bit of rubbish ought to do.
We'll smoke the blighter there out
We'll smoke the monster out!

資料 a : 燻してやれ、追い出してやれ。薪（たきぎ）を集めて火を点けてしまおう。燻
してやれ、化け物めを。

資料 l : 燻してやれ、追い出してやれ。薪（たきぎ）を集めて火を点けてしまおう。そ
う、燻してやれ、化け物めを。

9-2 Dodo

英文 : Oh, we'll roast the blighter's toes
We'll roast the bounder's nose!
Just fetch that gate
We'll make it clear that monsters aren't welcome here (p.54)

資料 a : オー、足はこんがり、鼻をカリカリ、引き出してやる化け物め、ほら、ここま
でおいで。

資料 l : オー、足はこんがり、鼻をカリカリ、さあ、追い出すぞ化け物め、観念しなよ。

9-3 Dodo

英文 : We'll blow the thing there out

We'll smoke the monster out! (p.56)

資料 a : ためらわずに、殺してやれ。

資料 l : ためらわないで、追い出すんだ。

9-4 White Rabbit

英文 : We'll smoke the monster out.... Noho! Noho, my poor house and furniture....
(p.56)

資料 a : 燃しちゃうの？ おいおい、もうやめてくれ！ わしの家が、道具が！

資料 l : 追い出すんだ。おいおい、もうやめてくれ！ わしの家や道具が！

11-1 Alice

英文 : But I'm not used to it. And you needn't shout! Oh dear! (p.69)

資料 a : でも私は慣れてないわ。それに毛虫さん、怒鳴らないでよ。

資料 l : でも私は慣れてないわ。それに芋虫さん、怒鳴らないでよ。

12-1 Cheshire-Cat

英文 : However, if I were looking for a white rabbit, I'd ask the Mad Hatter. (p.75)

資料 a : とにかくニャー、私が白うさぎを探す気だったら、真っ先に、かの有名なる、
いかれ帽子屋に訊くね。

資料 l : とにかくニャー、私が白うさぎを探す気だったら、真っ先に、変てこで有名な
マッドハッターに訊くね。

12-2 Alice

英文 : The Mad Hatter? Uh.... no, no, I do – I do.... (p.75)

資料 a : いかれ帽子屋？ あ、でも、私やめとくわ。

資料 l : マッドハッター？ でも、私やめとくわ。

12-3 Cheshire-Cat

英文 : Or, there's the March Hare. In that direction. (p.75)

資料 a : じゃなきゃ、三月うさぎもいるニャ。あっちの方角だよ。

資料 l : じゃなきゃ、三月うさぎもいるニャ。あーっちの方角。

12-4 Cheshire-Cat

英文 : Of course, he is mad, too. (p.75)

資料 a : うさぎの方もいかれてるんだがニャー。

資料 l : もちろんうさぎも、相当変てこだニャ。

12-5 Alice

英文 : But I don't want to go among mad people! (p.75)

資料 a : 私、いかれた人たちとは会いたくないわ。

資料 l : 私、そんな変な人たちとは会いたくないわ。

12-6 Cheshire-Cat

英文 : Oh, you can't help that. Most everyone is mad here. Ha.... ha ha ha ha ha! You may have noticed that I'm not at all there myself.... (p.75)

資料 a : そんなこと言っても、どうにもならんさ。ここじゃみんないかれちまってるのさ。ムフフフ……ハハハ。もうあんただって気づいているだろうニャー、もちろん、この私だって……いかれてる。

資料 l : そんなこと言っても、どうにもならんニャ。ここじゃみんなが変てこなさ。ムフフフ……ハハハ。もう気づいているだろう、もちろん、この私だって変てこ。

13-1 Mad Hatter and March Hare

※この部分は日本語の吹き替えに異同はない。Mad Hatter と March Hare の掛け合いによる歌であるが、歌詞が 2 番までなのに対して、メロディは 3 回繰り返される。そのため、歌詞のないメロディだけの部分が出るのだが、それについて、異同がある。

英文 : 1 番→間奏→2 番という形で歌われる。(p.76)

資料 a : 前奏→1 番→2 番という形で歌われる。

資料 l : 1 番→間奏→2 番という形で歌われる。

14-1 March Hare

英文 : Careful! She's stark raving mad! (p.85)

資料 a : 気をつけろ！ いかれちまったのかもしれないぞ。

資料 l : 気をつけろ！ あの子も変てこりんになーっちまったのかも。

14-2 March Hare

英文 : It's going mad! (p.88)

資料 a : いかれちまった。

資料 l : こりゃ変てこ。

14-3 Alice

英文 : Oh, my goodness! (p.88)

資料 a : まあ大変！

資料 l : もう大変！

14-4 March Hare

英文 : It's going mad! Mad watch! (p.88)

資料 a : いかれちまった。

資料 1 : なんて変てこ。

14-5 Mad Hatter

英文 : I can't understand it, it's the best butter. (p.88)

資料 a : なぜだ。

資料 1 : どうすりゃいい？

14-6 March Hare

※March Hare の科白は下記 Mad Hatter の科白と被っているので、ここで一つにまとめた。

英文 : Mad watch! Mad watch! Mad watch! There's only one way to stop a mad watch! (p.89)

資料 a : いかれ時計だ。いかれ時計だ。いかれちまった！ いかれ時計には、これしかない！

資料 1 : 変てこ時計、変てこ時計、変てこ時計、変てこ時計。変てこ時計にはこれしかない！

14-7 Mad Hatter

※Mad Hatter の科白は 14-5 から続いており、上記 March Hare の科白と被っている。

また、ここでは原語、吹き替えともに英文テキストにない科白を話している。

英文 : Oh look! Oh! My goodness! (p.89)

資料 a : なぜだろう。バターじゃないとなると、お茶が原因かな。どうしよう、お茶が濃過ぎ……。

資料 1 : なぜだろう。バターじゃないとすると、お茶が原因かな。どうしよう、お茶が濃過ぎたんだ。

15-1 Alice

英文 : 'Don't step on the mome raths.' (p.92)

資料 a : モメ・ラスを踏まぬこと。

資料 1 : 踏まないで、モメ・ラスを。

16-1 Cards

英文 : And, the Queen, she likes them red

If she saw white instead

She'd raise a fuss

And each of us

Would quickly lose his head (p.97)

資料 a : 女王様は赤がお好き。白バラ植えたら殺されちゃう。

資料 l : 女王様は赤がお好き。白バラ植えたらクビになるよ。

17-1 Queen of Hearts

英文 : Who's been painting my roses red? Who's been painting my roses red? Who dares to taint, with vulgar paint, the royal flower bed? For painting my roses red, someone will lose his head! (p.100)

資料 a : なーんてことをやったんだ。なーんで赤くしたんだね。私の花びらよくも汚(よご)したね。覚悟はいいか、首を刎ねるぞ。

資料 l : なーんてことをしてくれたんだね。なーんで赤くしちまったんだい? 私の花びらよくも汚(よご)したね。さあ覚悟はいいかい、首を刎ねるぞ。

17-2 Queen of Hearts

英文 : Do you play croquet? (p.103)

資料 a : お前、クローケは出来るかい?

資料 l : お前、クロッケーは出来るかい?

19-1 White Rabbit

英文 : The prisoner at the bar is charged with enticing Her Majesty, the Queen of Hearts, into a game of croquet, (p.108)

資料 a : 被告席の容疑者は畏れ多くもハートの女王陛下を誘いクローケのゲームを行い、.....

資料 l : 被告席の容疑者は畏れ多くもハートの女王陛下を誘いクロッケーのゲームを行い、.....

19-2 White Rabbit

英文 : The Dormouse! (p.110)

資料 a : やまねずみ

資料 l : ドーマウス

19-3 White Rabbit

英文 : The Mad Hatter! (p.111)

資料 a : いかれ帽子屋

資料 l : マッドハッター

19-4 Alice

英文 : Your Majesty indeed! Why, you're not a queen, but just a fat, pompous, bad-tempered old ty-tyrant.... (p.115)

資料 a : 何が女王陛下よ。呆れてしまうわね。あなたはデブで、わがままで、底意地の悪い暴君……じゃない。

資料 l : 何が女王陛下よ。呆れてしまうわね。あなたは怒りんぼで、わがままで、底意地の悪い暴君……じゃない。

19-5 Cheshire-cat

英文 : Well, she simply said that you're a fat, pompous, bad tempered old tyrant, (p.115)

資料 a : あんたはデブでわがままで底意地の悪い暴君だとさ。

資料 l : あんたは怒りんぼでわがままで底意地の悪い暴君だとさ。

19-6 Chorus

英文 : (Chorus) Forward, backward, inward, outward, here we go again! No one ever loses and no one can ever win. Backward, forward, outward, inward, bottom to the top, there's.... (p.116)

資料 a : (Solo)前だ後ろだ中だ外だ、みんな追っかけろ。ぐるぐる回って身体を乾かそう。後ろが前で外が中、下が上さ。回れば頭も尻尾もないぜ。

資料 l : (Chorus)すぐさま捕らえて首刎ねろ。みんなでバタバタ追いかけろ。そら行(い)けみんなで手分けして、必ず捕らえて……

19-7 Alice

英文 : Mister Caterpillar! What will I do? (p.116)

資料 a : 毛虫のおじさん、どうすればいいの？

資料 l : 芋虫のおじさん、どうすればいいの？

20-1 Alice

英文 : Oh, I'm sorry, but you see, the Caterpillar said.... (p.118)

資料 a : まあ、ごめんなさい。でも毛虫さんはこう言ったのよ。

資料 l : まあ、ごめんなさい。でも芋虫さんはこう言ったのよ。

20-2 Alice's sister

英文 : Caterpillar? Oh, for goodness sake. (p.119)

資料 a : 毛虫が？ まあ、夢でも見たのね。

資料 l : 芋虫が？ まあ、夢でも見たのね。

資料 a と l における上記異同を、他の資料と比較した結果、資料 d と e の間で変更のあったものが 4 件 (5-1, 8-1, 13-1, 19-6)、他の異同はすべて資料 k と l の間で変更されていた。

考察

資料間の吹き替えの異同より、ビデオソフト『ふしぎの国のアリス』の吹き替え版は、1984年のVHS版から2005年のDVD版までの間に3種類の版が存在すると考えられる。

- ・ 日本語版 A：1984年VHS版から1987年LD版まで（資料 a～d）
- ・ 日本語版 B：1990年VHS版から2004年DVD版まで（資料 e～k）
- ・ 日本語版 C：2005年DVDスペシャル・エディション（資料 l）

では、日本語版 A と B、日本語版 B と C では、どのように変更があったのか。以下に変更の特徴を見て行きたい。

日本語版 A から B に変更されたのは、今まで外部の会社（ポニー、バンダイ）にライセンスアウトして販売していたビデオソフトをディズニー系列のブエナ ビスタが販売することになった際である。自社製品として出すに当たり、一度翻訳を見直し、一部修正したことが解る。1990年以降、VHS ではブエナ ビスタ、LD・DVD といったディスクメディアはパイオニア LDC（現ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメントジャパン）が販売している。パイオニア LDC は 1985 年に LD をリリース、その後バンダイによる LD の販売時期を除いて 1998 年の DVD まで一貫してディスクメディアの販売を担当している。これはこの会社が LD ソフトの製作・販売のために設立されたパイオニアの子会社であることからディスク製作を受け持ち、VHS についてはポニーあるいはブエナ ビスタが製作するという分担になっていたと考えられる。いづれにせよ 1990 年の時点でこの映画の販売がディズニーに戻ったこと、それにより再録音が可能となったことが日本語版の変更を可能にしたことは確かである。

日本語版 A と B との間の変更は、大きく

- ・ 歌の奏法に関する変更
- ・ 歌詞に関する変更

に分かれる。変更点 4 ヶ所すべてが、歌の奏法に関し変更が行われている。

5-1 に関しては、日本語版 A では Dodo の独唱であったところが Dodo の独唱と合唱との掛け合いになっている。英語版でも同様に独唱と合唱の掛け合いでこの部分は歌われる。8-1 に関しては、日本語版 A では Tweedledum と Tweedledee の合唱で歌われていた部分が、歌の前半・後半で歌い手が代わって、それぞれ独唱で歌われる。13-1 に関しては、録音そのものに変更はない。伴奏に歌の入るタイミングが英語版に合わせる形で修正されている。19-6 は日本語版 A で独唱であった部分が英語版と同じく合唱になっている。

歌詞に関する変更については、5-1 では語尾のみの修正に留まっており、13-1 では変更がない。しかし、8-1、19-6 では大きく歌詞が変更されている。

8-1 については、日本語版 A も B も原文とは大きく離れている。Father William が逆立ちしたところだけを取り上げて創作した歌詞といえるが、A も B も歌詞の大筋に変更はない。ただ、日本語版 A が、やや Father William を馬鹿にしているニュアンス

が感じられるのに対し、日本語版 B では心配しているような歌詞になっている。また、科白の間に地の文が挿入される（「いや」、胸を反らしウィリアムは答えた。「馬鹿にするなよ……」）部分を修正し、挿入句的な表現を削除することにより、Tweedledum と Tweedledee との掛け合いで歌った場合に、掛け合いであることが解りやすい歌詞になっているといえる。

一方、問題になる変更が 19-6 だ。原文は 5-1 の変形である Caucus-Race の歌詞であり、日本語版 A では 5-1 の歌詞をそのまま使っているのに対し、日本語版 B では原詩の通りに訳し直すのではなく、全く新たな歌詞を日本語版として作詞してしまっている。これは Alice が Queen of Hearts や Cards に追いかけている場面で Caucus-Race に巻き込まれるというところから、追いかける危機感を歌でも出したかったのだろうと思われる。しかし、裁判から逃げてから Alice の目覚めまでは、うさぎ穴の底にある広間から不思議の国へと出る際に Alice が辿った道をそのまま遡っているのだ。

- ・ 行き

Door Knob との会話→涙の池→Caucus-Race→不思議の国へ上陸

- ・ 帰り

迷路になった Queen of Hearts の庭→Caucus-Race→（ティーカップに落ちて浮かび上がると）→涙の池→Door Knob との会話

いわば不思議の国と現実世界の境目で Caucus-Race が行われているのだ。そうである以上、ここでは原文通りに、Caucus-Race の歌詞でないと論理が通らなくなる。話を解りやすくしようとして歌詞を改悪した、そういわれても仕方がない部分であろう。

また、この比較により、1992 年にテレビ放映された際の吹き替えが日本語版 B であることも判明した。1984 年に日本語版 A がリリースされて以降、日本では 1987 年に『ふしぎの国のアリス』が劇場で上映されている。しかし、その時の日本語版では、すでに VHS や LD で流通している吹き替えが使用されていなかった⁵。日本語版 B が使用された 1992 年のテレビ放映が、ブエナ ビスタによる VHS リリース以降であることを考えると、1987 年の劇場版上映当時、日本語版 A のリリースの権利がバンダイにあったことが、この版で上映されなかった理由と見なして良いと考えられる。

次に日本語版 B と C との差違を見てみよう。

目立つのは登場人物名の変更だ。

- ・ 大工→大工さん
- ・ 毛虫→芋虫
- ・ いかれ帽子屋→マッドハッター
- ・ やまねずみ→ドーマウス

これらの変更については、それぞれ後述する理由による変更と考えられるので、ここで論じる。

では、DVD パッケージに記載されている「日本語吹き替えの一部を、現在の日本語表現に合うよう、新しく収録しています」の「現在の日本語表現」とは、具体的にどのようなものか見てみよう。これによって、ディズニー・スタジオの邦訳に関する日本語の意識についても推測出来よう。

1. 歌詞がメロディに乗るように修正したもの

パッケージにある「現在の日本語表現」とは違うが、日本語版 B までは歌としてメロディに乗っていなかった（単に科白と取られかねなかった）部分で、歌らしく、メロディに合うよう改訂されている部分がある。3-3, 3-4, 3-5 がそれで、以前の日本語版ではアリスと白うさぎの会話に過ぎなかったのが、英語版と同じ、白うさぎの歌う歌になっている。

6-1, 7-1 で Carpenter の訳語を「大工」から「大工さん」としたのも、歌の部分の歌詞とメロディの関係からであると思われる。6-1 は科白の部分であり、7-1 は、*The Walrus and the Carpenter* の歌の中ではあるものの科白として語られる部分であるが、この歌の第二スタンザの頭に「ある日セイウチと大工さんが」という歌詞がある（原文：*The Walrus and the Carpenter*; p.40）。日本語版 B までは、「大工」と「大工さん」が混在していたわけだ。それを統一するに際し、歌詞としてメロディに乗っている「大工さん」を変更せず、科白の部分の「大工」を「大工さん」に変更したと思われる。

9-4 では、White Rabbit が「We'll smoke the monster out」と、Dodo の歌を繰り返してから我に返り「Noho! Noho, my poor house and furniture....」と Dodo を止めようとする。日本語版 B までだと、Dodo の「殺してやれ」の後で「燃しちゃうの?」と、歌詞ではなく普通の科白になっている。日本語版 C では、「追い出すんだ」の歌詞を繰り返して歌う形に修正されている。

2. 誤訳、行きすぎた意識の訂正

9-2 では、*We'll make it clear that monsters aren't welcome here* を日本語版 B までは「引き出してやる化け物め、ほら、ここまでおいで」としているが、日本語版 C では「さあ、追い出すぞ化け物め、観念しなよ」としている。「ここまでおいで」だと意識が過ぎるということから、「観念しなよ」としたと考えられる。9-3 は、日本語版 A では「ためらわずに、殺してやれ」とあるが、原文「*We'll smoke the monster out!*」は「燻し出す」、殺すというニュアンスはない。インパクトは強いが誤訳といえよう、日本語版 C で「追い出すんだ」としている。

Dormouse の訳語も、一種の誤訳の訂正といえなくもないであろう。ヤマネとやまねずみでは、全く別の生き物であるから。同じく *Caterpillar* の訳語を毛虫から芋虫に変えたのも、ここに分類されるであろう。誤訳ではないが、アニメーションに出てく

る **Caterpillar** は、毛虫というには毛深くない。また、厳密には誤訳とはいえないものの、この分類に入るものに、**Croquet** の訳語がある。日本クロケ協会が存在しており、定訳として「クロケ」を使うのが妥当と判断して「クローケ」から修正したと考えられる。また、3-1 で **White Rabbit** の科白を原文通り口笛に戻したのも、行き過ぎの修正と考えてよからう。

3. 演出上の変更

15-1 がこれに当てはまる。アリスの見ている前で道標に「**Don't step on the mome raths.**」と書かれて行く。日本語版 C では、原文の語順を意識して「踏まないで、モメ・ラスを」とした。

4. 「殺す」という表現の修正

16-1 がこれに当てはまる。「殺されちゃう」の「殺す」を避け、かつ歌に合わせて6音節にするため「クビになるよ」としている。原文の「**lose his head**」を受けた形であろうが、今の日本語で「クビになる」といえば、単に解雇を指す。実際、劇中で何度も「首を刎ねる」という科白が出てくるのに、ここだけ「殺す」を避けても意味がない。6音節なら、せめて「打ち首だよ」くらいなら、原文に合っていたであろうが、疑問の残る修正である。なお、9-3 もこの分類に当てはまるように見えるが、それ以前に日本語版 B までが意識として行き過ぎていた部分であるので、その修正の意味合いが強いと考える。

5. 罵倒表現、(いわゆる) 差別表現の修正

原作もそうであるが、ディズニー版『ふしぎの国のアリス』においても、登場人物の多くは気が狂っている。そこで **mad** の訳語をどうするかということになるのだが、日本語版 B までは「いかれている」としていた。**Mad Hatter** は、「いかれ帽子屋」。しかし、日本語版 C では、「いかれている」という言葉すら避けるようになった。その結果、**Mad Hatter** はそのまま「マッドハッター」、科白に出てくる **mad** は、「変てこ」あるいは「変」「変てこりん」とされた。

一方、19-4, 19-5 では **fat** の和訳である「デブ」が、日本語版 C では罵倒表現として避けられている。しかし、**fat** に「怒りんぼ」という「訳」を当てるのは、行き過ぎの感が強い。

6. その他

各変更点について、変更理由を考察したが、上記に当てはまらない、変更理由の見当たらない変更点もある。3-2 については、原文にあり、日本語版 B では訳されていた「ダイナ」が削除されている。9-1 では、最後の一節の前に「そう」と間投詞が入る。12-3, 17-1 に関しても、文章の意味、表現ともに変更前後で大きな違いがあるわけではない。これらについては、おそらくは吹き替え録音に際してのリズムや語呂、息継

ぎといった、声優の生理、音声の響きに配慮したものではないかと思われる。14-7 については変更点として挙げてはいるが、実際には語尾が切れているかどうかのみの違いである。おそらくは White Rabbit の時計を巡る一連の変更を はめ込む際の録音時間のずれから、日本語版 C では Mad Hatter の科白が最後まで聞こえるようになったと考えられる。

以上、日本語版 B と日本語版 C との変更点を見たが、『ふしぎの国のアリス スペシャル・エディション』にあった「現在の日本語表現に合うよう」に該当する変更は必ずしも多くなかった。原文で歌になっている部分をちゃんと「歌」にしたり、行き過ぎた意識や誤訳の修正も少なくなかった。一方、「現在の日本語表現」に当てはまるとされる「殺す」という表現の回避や罵倒語・いわゆる差別用語の回避という、political correctness に関する修正では、「いかれている」や「デブ」という言葉すら回避する姿勢が認められた。こういった用語の回避が果たして『ふしぎの国のアリス』のみに行われたものであるのか、あるいは他のディズニーの作品の DVD 再発においても同じことが行われているのか、行われているとすれば、いつの時期からなのか。ディズニー・スタジオにおける political correctness に対する姿勢、方針の中での『ふしぎの国のアリス』日本語版の位置づけを確認する必要があると考えられる。

まとめ

2005 年までに発売されたディズニー版『ふしぎの国のアリス』の日本語版ビデオソフトは全部で 3 種類あった。最初の日本語版は 1984 年から 1987 年までリリースされており、その後、1990 年にリリースされた版で修正が加えられた。この際の変更はごく僅かであり、その内容は主に劇中の歌の型式を英語版に合わせることであった。その後 2005 年にリリースされた版では大幅に変更されることとなった。その際、公式には「現代の日本語表現に合うよう」修正したとされているが、事実上は 1)科白になっていた歌詞をメロディに乗るように修正、2)誤訳や行き過ぎた意識の修正、3)画面の進行が理解しやすいよう語順の変更、4)「殺す」という表現の回避、5)罵倒表現、差別表現の回避、6)おそらく録音上の音声の響きに配慮したと思われる変更、といった修正が行われていた。

上記変更点および変更時期を確定することで、映像メディアとしての『ふしぎの国のアリス』ビデオソフトの書誌的特徴を記述することが出来たと考える。

引用文献・URL

¹ 木下信一「日本で公開されたディズニー映画『ふしぎの国のアリス』」 *Mischmasch* 9, 101-124, 2007

² http://www.amazon.co.jp/product-reviews/B0009Q0K3W/ref=dp_top_cm_cr_acr_txt?ie=UTF8&showViewpoints=1

³ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%B5%E3%81%97%E3%81%8E%E3%81%AE%E5%9B%BD%E3%81%AE%E3%82%A2%E3%83%AA%E3%82%B9>

⁴ 藤田英時『ふしぎの国のアリス』別冊宝島 1470 名作アニメで英会話シリーズ, 2007

⁵ 木下, 2007